

田川市立病院 VOL.20 冬号/2018

ニュースレター

患者さんに最適な医療サービスを

■医療連携

「医療連携」とは地域全体で地域の医療を支えるために、中核病院と地域の病院・診療所(かかりつけ医)、介護療養施設等がバラバラに医療サービスを提供するのではなく、連携してそれぞれの特長を活かし、地域全体でひとつの医療システムを形成し住民の方々に最適な医療サービスを提供しようという考え方です。

現在、各地の医療機関がこの医療連携に取り組んでいますが、田川医療圏のように、今後、人口の減少や高齢化が想定される地域では、地域の医療を崩壊させないためにも積極的に取り組む必要があります。

例えば、中核病院では救急患者さんや入院患者さんに対する専門的な治療を行うことが求められていますが、軽症の患者さんなども中核病院に集中している状況です。限られた医師数の中でその機能を発揮するため、また、外来の待ち時間削減のためにも状態の安定した患者さんを地域の病院・診療所(かかりつけ医)にお願いすることがあります。住民のみなさんの医療連携に対するご理解・ご協力をお願いいたします。

■医療連携室のご紹介

現在、当院の医療連携室は医師1人、看護師長1人、看護師3人、社会福祉士2人、事務職1人で構成されており、地域の医療機関や介護施設、さらには都市圏の高次医療機関と当院との連携等を業務としています。今後、医療連携業務と相談窓口業務を統合して、センター化する予定です。



■医療連携室の役割

医療連携室の大きな役割として、前方支援と後方支援があります。

前方支援

住民のみなさんが地域の病院や診療所を受診し、より詳しい検査や入院が必要な場合に、医療連携室が田川市立病院での窓口となり、地域の医療機関と連絡をとり、患者さんの受け入れを行います。

地域の医療機関からは、電話やFAXで連絡を受け、診療科により予約も受け付けています。また、CTやMRIなどの高度医療機器の検査予約も受け付けています。

紹介状(診療情報提供書)を持って受診された患者さんには、当院で診療した医師が診療情報提供書に診療内容を記入し、紹介元の医療機関に医療連携室から報告します。

より高度な医療が必要になった場合には、大学病院などと連携し、転院や受診予約を行います。

その他、かかりつけ医にかからず直接当院を受診された場合は、かかりつけ医に診療の経過・お薬の内容・検査結果などを問い合わせます。反対に、当院かかりつけの患者さんが他の医療機関を受診し、その医療機関から処方内容や検査結果の問い合わせがあれば、患者さんの診療がスムーズにいくよう対応しています。

患者さんに最適な医療サービスを

後方支援

「後方支援(退院支援)」とは、例えば「引き続きリハビリできる病院を知りたい」、「自宅に帰っても一人暮らして家事が大変。どうしたらいい?」、「退院後はヘルパーやデイサービスを使いたいけど、どこで何の手続きが必要なの?」など、入院によって生じた様々な心配事や困り事に対して社会福祉士等の専門職が患者さんやその家族と面談を行い、一緒に状況を整理し、必要な情報を提供し、解決に向けた支援を行うことです。

田川市立病院には後方支援(退院支援)を専任で行う「社会福祉士」が2人在籍しています。社会福祉士は、福祉の専門職ですが、医療機関ではMSW(医療ソーシャルワーカー)とも呼ばれ、患者・家族に対して退院支援などの相談援助業務を行う、いわゆる病院の「相談員」です。

当院入院中に心配事や困り事、どこに相談したらよいか分からないことなどがありましたら、まず、社会福祉士(MSW)に相談してください。不安や問題について一緒に解決方法を考えていきましょう。



紹介状持参のお願い

田川市立病院は「かかりつけ医(地域の医院・診療所)」からの紹介によって受診していただく「紹介外来制」をとっています。

当院を受診するときは、他の医療機関からの「紹介状(診療情報提供書)」が必要です。紹介状がない場合は、医療費とは別に「初診時にかかる保険外併用療養費」として2,160円(税込)を負担していただいています。

初診時に「紹介状」を持参すると、次のような利点があります。

〈利点〉

- ・ 現在までの病状、薬の内容などの治療経過がわかり、不要な検査などを省いて治療を早く始めることができる
- ・ 当院で行った診療内容を「診療情報提供書」に記載してかかりつけ医に報告するため、かかりつけ医は、当院で行った診療を理解したうえで適切に治療を行うことができる
- ・ 初診時、かかりつけ医から当院の医療連携室を通して診療予約をとることができる
※ 予約日時に来院して診療を受けることができるため、待ち時間が少なくなります



地域包括ケアシステム

近い将来、団塊の世代の高齢化が急速に進み医療費が膨大に膨らむと予想されており、地域全体で無駄なく効率的に医療や介護を提供していかなくてはなりません。在宅医療を含む地域の医療・介護関係機関と連携して、患者さんを地域全体で効率的に診ていく必要があります。これを「地域包括ケアシステム」といいます。

当院は急性期医療を担当とする地域中核病院として、田川地域での地域包括ケアシステムの一翼を担うべく地域の多職種と連携して医療や介護の効率化を図らなければなりません。

そのため当院では、病院の全職員で取り組む総合医学会の平成29年度のテーマを「地域包括ケアシステムについて」とし、1年かけて各部門が具体的にどのように関わっていくのかを話し合い、将来の田川地域の地域包括ケアシステムの構想を練っています。

平成30年3月10日には、総合医学会総会で各部門が検討してきた内容を発表する予定です。これを皮切りに、田川地域の地域包括ケアシステムの一員として、当院は地域の中核病院としての責任を果たしていきたいと考えています。



当院消化器内科の紹介

～大腸内視鏡検査を躊躇しないで～

消化器内科 医長 高津 典孝

現在、消化器内科では、4人の常勤医で外来や病棟(入院治療)、X線造影検査、内視鏡検査・治療を行っています。主に、逆流性食道炎や胃・十二指腸潰瘍などの上部消化管疾患、胃がんや大腸ポリープ、大腸がんなどの消化管腫瘍、クローン病や潰瘍性大腸炎を代表とする炎症性腸疾患の診断・治療を行い、消化管出血や急性腹痛などの急性疾患にも臨機応変に対応しています。

消化管のがんの中では、近年、大腸がんが年々増加の一途をたどっており、国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」の最新の報告(平成29年12月)によると、がんで死亡された方のうち、女性で1位、男性で3位となっています。しかしながら、大腸がんは早期発見・早期治療が行われれば十分に予後の見込めるがん腫の一つであり、「大腸癌治療ガイドライン」によると、リンパ節や遠隔転移のないStage II以下であれば、約85%の5年生存率が期待できるとされています。さらに、前がん病変(高頻度にがんになりやすいと考えられている病変)である腺腫性ポリープを内視鏡的に摘除することで、大腸がん罹患率及び死亡率が減少することが米国の大規模な研究により証明されています。

現在、大腸がん検診として、便潜血検査が広く普及し、複数の研究にて大腸がん死亡率減少効果があることが示されて

います。しかしながら、便潜血検査は、たとえ進行がんが存在したとしても、その約30%は陰性(偽陰性)となり、前がん病変である腺腫の場合、その検出感度(陽性率)は約50%とされ、大腸腫瘍の検出において限界があるのも事実です。したがって、当科では、大腸がんの検診、前がん病変の早期発見・治療のために大腸内視鏡検査を積極的に行っています。大腸がんは30歳頃から徐々に増え始め、50歳を過ぎると急激に増加するため、40歳になったら大腸内視鏡検査を受けることをお勧めします。大腸内視鏡検査は苦痛を伴うイメージをお持ちの方もいると思いますが、ご希望の方には、軽い鎮静剤(静脈麻酔)を使用することができます。極力、苦痛のない検査を心がけています。大腸がん検診を希望される方は、気軽にご相談ください。



田川市立病院 糖尿病便り

糖尿病内分泌内科 医長 牧村 啓晃

1990年代は糖尿病や予備群の方は約1,500万人でしたが2007年には2,000万人を超え、糖尿病と診断された患者さんの治療だけではなく、糖尿病に至る前に予防することも重要であることが指摘されています。

「糖尿病が強く疑われる患者さん」は2016年に、ついに1,000万人となり予断を許さない状況です。人口が約1億人とする10人に1人が「糖尿病が強く疑われる患者さん」となっています(図参照)。

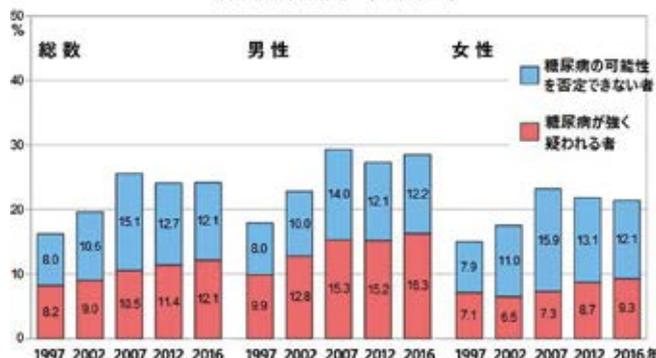
糖尿病の検査治療は日々進歩しており、当院では糖尿病専門医と糖尿病療養指導士でチームを作り診療を行っています。昨今の健康ブームもありご自身で留意している方が多く非常に喜ばしいことですが、誤った情報が氾濫し民間療法やサプリメントなどに惑わされている方も見られます。当院では、患者さんやそのご家族に糖尿病に関して正しい情報を知ってもらうため、月に3回糖尿病教室を行っています。市民の方にも公開していますので、参加してみてください。

また、糖尿病から様々な合併症に至ることを予防することも重要です。2017年4月に眼科常勤医が赴任し、当院でも毎日、糖尿病網膜症の評価を行うことができるようになりました。また、慢性腎不全、透析に至る患者さんを減らすため2016年10月から透析予防指導外来を開設

しました。上腕に500円玉サイズの機器を装着し、2週間連続して血糖値の近似値を測定するフラッシュグルコースモニタリングシステムという機器が開発され当院でも試行可能となりました。

現在、常勤専門医1人(新患:木曜日、再診:金曜日)で、月・火・土曜日は九州大学第3内科からの応援医師、水曜日は池田名誉院長と内分泌専門医(甲状腺疾患など)による診療を行っています。そして、近隣の医療機関と連携しながら田川地域の糖尿病診療に従事しています。

「糖尿病が強く疑われる者」「糖尿病の可能性を否定できない者」の割合の年次推移(20歳以上)



出典:2016年国民健康・栄養調査,2017年

田川市立病院 外来診療担当医

外来診療受付時間 8:30~11:00

休診日 日曜日・祝日・年末年始(12月29日~1月3日)

平成30年2月1日現在

診療科		月	火	水	木	金	土
循環器内科	新患	—	桑田 孝一	—	浅田 哲史 (非常勤)	山岸 靖宜	当番医 (新患のみ)
	再来	山岸 靖宜	松島 将士 (九州大学)	船越 公太 (九州大学)	桑田 孝一 細川 和也 (九州大学)	—	
消化器内科	新患	平野 昭和	高津 典孝	平塚 裕晃 (福岡大学筑紫病院)	大藏 裕子	小野 貴大	
	再来	—	平野 昭和	小野 貴大	高津 典孝	—	
腎臓内科	新患	大仲 正太郎	—	吉田 健	辻川 浩明 (九州大学)	末永 達也	
	再来	末永 達也	大仲 正太郎	—	—	吉田 健	
糖尿病内分泌内科	新患	—	—	—	牧村 啓晃	—	
	再来	池田 陽介 (九州大学)	井上 智彰 (九州大学)	妊娠糖尿病外来 牧村 啓晃 (第1-3) 井林 雄太 (九州大学) 名誉院長 池田 喜彦 (第4のみ)	—	牧村 啓晃	
脳血管内科	新患 再来	—	—	芝原 友也 (九州大学)	—	—	
呼吸器内科	新患 (要予約) 再来	—	田中 謙太郎 (九州大学)	—	—	—	
肝臓内科	新患 再来	稲田 浩気 (九州大学)	徳松 誠 (九州大学) 伊原 諒 (福岡大学筑紫病院)	—	—	—	
神経内科	新患 (要予約) 再来	—	—	磯部 紀子 (九州大学)	—	—	
内科	新患 再来	—	—	—	—	中国 和利 (高梁医科大学)	
緩和ケア内科	新患 再来	河村 康司	—	—	河村 康司	—	
小児科	新患 再来	尾上 泰弘	倉田 浩昭	村岡 衛	倉田 浩昭	尾上 泰弘	当番医
	再来	循環器外来 (第4午後) 濱本 邦洋 (非常勤)	腎臓外来 (第4午後) 尾上 泰弘	血液・免疫・ワクチン外来 (第4午後) 大賀 正一 (九州大学) 血液・免疫・ワクチン外来 (第1-3午後) 高田 英俊 (九州大学)	—	神経外来 (第1午後) 非常勤医師 (九州大学)	神経外来 (第3午前) 非常勤医師 (九州大学)
外科	新患	松隈 哲人	鴻江 俊治	丸山 晴司	鴻江 俊治	小斉 侑希子	当番医
	再来	中ノ子 智徳	丸山 晴司	小斉 侑希子	中ノ子 智徳 血管外科外来 (第2・4) 非常勤医師 (九州大学)	松隈 哲人	休診
呼吸器外科	新患 再来	—	非常勤医師 (九州大学)	—	—	—	休診
整形外科	新患 再来	久枝 啓史 新井 貴之 遠矢 政和 (九州大学)	久枝 啓史 石橋 正二郎 綾部 裕介	石橋 正二郎 新井 貴之	久枝 啓史 新井 貴之 馬場 寛 (九州大学)	久枝 啓史 石橋 正二郎 綾部 裕介	当番医
	再来	—	名誉副院長 張 瑞棠	—	名誉副院長 張 瑞棠	名誉副院長 張 瑞棠	—
形成外科	新患 再来	柳澤 明宏	柳澤 明宏	柳澤 明宏	柳澤 明宏	柳澤 明宏	休診
皮膚科	新患 再来	分山 英子	分山 英子	分山 英子	分山 英子	分山 英子	休診
泌尿器科	新患 再来	石田 浩三 坪内 洋明	石田 浩三 坪内 洋明	石田 浩三	坪内 洋明	石田 浩三 坪内 洋明	当番医
産婦人科	産科 (妊婦検診)	—	藤田 拓司	宮崎 順秀	椎名 隆次	川上 稷	休診
	婦人科 新患	川上 稷	宮崎 順秀	椎名 隆次	藤田 拓司 川上 稷	交替	
	婦人科 再来	交替 藤田 拓司	椎名 隆次	川上 稷 清木場 亮 (九州大学)	宮崎 順秀	藤田 拓司	
眼科	新患 再来	永戸 天 塩瀬 聡美 (九州大学)	永戸 天 立花 崇 (九州大学)	永戸 天	永戸 天	永戸 天	休診
耳鼻咽喉科	新患 再来	非常勤医師 (福岡大学)	非常勤医師 (産婆医科大学)	—	非常勤医師 (福岡大学)	—	非常勤医師 (産婆医科大学)
総合診療科	新患 再来	河村 康司	—	—	河村 康司	—	—
麻酔科	新患 (要予約)	術前診察 渡邊 雅嗣	—	疼痛 小山 稷	疼痛・術前診察 小山 稷	—	休診
	再来	—	疼痛 小山 稷 渡邊 雅嗣	透視下ブロック 小山 稷	—	疼痛 小山 稷 渡邊 雅嗣	
歯科・ 歯科口腔外科	新患 再来	天野 裕治 藤田 弥千	天野 裕治 藤田 弥千	天野 裕治 藤田 弥千	天野 裕治 藤田 弥千	天野 裕治 藤田 弥千	当番医

新患 新しく受診される患者さん 再来 当院を受診され、予約をしている患者さん 小児科夜間診療時間(受付時間): 平日の18:00~21:30

アクセス

JR+
平成筑豊鉄道

西鉄バス

JR田川後藤寺駅→JR田川伊田駅
 平成筑豊鉄道田川伊田線→田川市立病院駅
 ※田川市立病院駅からは無料の連絡バスが
 出ています。

後藤寺(金田平原団地行き)→田川市立病院

**田川市
コミュニティバス**

路線① 坂谷・田川病院線 ※後藤寺で②へ乗り換え
 路線② 大浦・弓削田線
 路線③ 伊加利・松原線
 路線④ 鎮西・金川線
 路線⑤ 施設循環線 ※伊田駅前③か④へ乗り換え
 路線⑥ 白鳥工業団地線 ※伊田駅前③か④へ乗り換え